

## 3月26日 薬害スモン事件の ミニ学習会にぜひご参加ください！

日時：2015年3月26日 木曜日 14:30~17:00(予定)

14:15-開場, 14:30-薬害スモンのビデオ上映, 15:00頃-講演

場所：東京民医連2階会議室 (大塚)

講師：辻川郁子 (つじかわふみこ) さん



辻川さんは、1960年代後半、被害者推定1万人、全国27地裁の大訴訟となった薬害スモン事件の元原告さんです。

薬害スモン裁判の被害者側の全面勝利は、薬の安全性の検討、管理、被害の補償の面で、薬事法から、薬の社会を大きく変えました。

また、国や大企業を相手にした水俣公害訴訟にも大きな勇気と希望を与えたと言われています。

経済発展とか利益の前にあるべき、国民の健康、命、人権を守ることの大切さを一緒に感じてみませんか？

研修とかでもなかなか聞けません！

是非是非ご参加ください。

☆薬害スモン事前よみもの☆ 「この命、つむぎつづけて」から大部分引用させていただきました。

### \* 薬害スモンとはどのような病気？

1955年頃から日本全国各地で現れ始めました。突然猛烈な腹痛を伴う下痢に襲われ、やがて足先から鋭い痛みと冷感を伴った痺れが、腹、胸へと上がり、人によっては視神経をおかされ失明。重度では全身麻痺、そのまま死亡してしまうことも。

### \* 「スモン」という名前

原因不明のままこの病気の患者は増え続け、1965年頃、亜急性脊髄視神経末神経症-英語の頭文(Subacute Myelo Optico Neuropathy)をとって SMON と名づけられました。その後、1970年8月にスモンの原因がキノホルムとわかるまで、ウイルス説、風土病などとされ、偏見差別から自殺者も少なくありませんでした。9月に販売中止となった後の患者発生はほぼゼロとなるまで、スモン患者は2~3万人にのぼりました。

### \* 原因薬キノホルムとは

この薬は戦前からありましたが、用途は軍人のアメーバ赤痢治療用という特殊なものでした。しかし、戦後、整腸剤として通常の下痢にまで適応が拡大され、1日用量も使用期間も制限が緩和されました。182品目もの大衆薬にも含まれていました。

### \* 薬害スモン裁判のもたらしたもの

この訴訟の原告側全面勝利は、国民の命、健康、生活を守るため「予防原則」に基づく対応の重要性を確立させました。

また、薬の承認基準の見直し、副作用報告の義務化を含む薬事法の改訂がなされ、医薬品副作用被害救済基金が設立されたのも、この薬害裁判の勝利がもたらしたものです。

### 薬いろいろ..ディオバン事件<続々>

東京地検特捜部で捜査されているディオバン事件ですが、京都府立大の臨床研究チームの担当医師が、患者データに架空の症状を加筆したこと供述していることがわかりました (3/16 読売新聞)。

人事に影響を持つ教授がデータの取りまとめをしており、その教授がディオバン側に有意味な結果を望んでいたことから、人事で優遇して欲しかった..と。

厚労省、同大学の調査では、このことは一切報告されませんでした。これこそ利益相反の最悪たる部分ではないでしょうか。

「利益相反関係にあるように見えることも禁じる」所以ですね。